

調査・事例報告

「出席レポート」に関するアンケート調査結果

金子 能呼

The questionnaire survey on "attendance report"

KANEKO Noko

要 旨

松本大学松商短期大学部において2013(平成25)年度前期に開講された「選択必修科目」の受講学生を対象とした、「出席レポート」に関するアンケート調査結果について報告する。

キーワード

出席レポート メモ力 コンピテンス

目 次

- I. 「出席レポート」とは
- II. 「出席レポート」の取組状況
- III. 2013年度前期開講選択必修科目のアンケート調査結果

I. 「出席レポート」とは

「出席レポート」の取組は、2009（平成21）年度教育GPに選定された『メモ力育成を核とした単位制度実質化の取組』の一部として導入された。「出席レポート」を課す「選択必修科目」の受講方法に変化を加えながら展開し、取組は今年度で5年目を迎えた。

「出席レポート」とは、毎回の授業で課し、次の授業で出欠を兼ねて提出させるレポートのことで、通常の「レポート」と区別している。学生は授業後に授業内容を整理し、作成したレポートを、次週の授業で提出する。提出されたレポートは、教員が添削し、コメントを記載したうえで、さらにその翌週の授業において学生に返却する。この「出席レポート」により、教員は学生の理解が正しいかどうか、また授業内容や授業展開が受講者の理解状況に応じたものであったかどうかを把握することができ、授業改善につなげることもできる。

学生は「出席レポート」に質問や感想なども記入するため、教員は無機質に添削するのではなく、個別に説明を加えたり、アドバイスや励ましの言葉を記して返却する。つまり、「出席レポート」を介して学生一人ひとりに対して学習をサポートするとともに、教員と学生による双方向型学習の構築を可能にしている。

II. 「出席レポート」の取組状況

現在、「選択必修科目」に位置づける8科目において、「出席レポート」の取組を実践している。「選

表1 2013年度前期選択必修科目の受講者数

	商学科	経営情報学科
経済の基礎	31	10
金融の基礎	82	49
経営の基礎	114	110
マーケティングの基礎	118	109

単位：人

注：2年生の受講者は除く

表3 選択必修科目の成績

	商学科	経営情報学科
S・A	209(60.6)	163(58.6)
B	60(17.4)	41(14.7)
C	42(12.2)	26(9.4)
D	18(5.2)	31(11.2)
JRQ	16(4.6)	17(6.1)
計	345(100.0)	278(100.0)

単位：人（ ）内は構成比

択必修科目」は1年次の前期に4科目、後期に4科目が開講されており、各期2科目以上の単位を取得することが卒業要件になっている。

2013（平成25）年度前期に開講された「選択必修科目」の受講者数は、表1の通りである。科目によってばらつきがあり、商学科の学生がより積極的に受講していることがわかる。

「選択必修科目」は4科目中2科目以上の単位を取得しなければならない。各学科の受講科目数を見ると（表2）、商学科は3科目を受講する学生がもっとも多いのに対し、経営情報学科は2科目の受講者数が約6割を占める。また、4科目すべてを受講する学生のシェアを見ると、経営情報学科は4.4%に過ぎないのに対し、商学科は16.8%と大幅に上回っている。

学科別に選択必修科目の成績を見ると（表3）、受講科目数の多い商学科の方が、S・Aの占めるシェアが大きい。C以上の単位取得数も、経営情報学科と比べ、商学科は7.5ポイント上回っている。

選択必修科目については、学科により格差が示されているが、全科目で学科別の比較を見ると（表4）、履修科目数や取得単位数、GPAともに、やや商学科が上回っているものの、大きな格差があるとは言えない。

III. 2013年度前期開講選択必修科目のアンケート調査結果

「出席レポート」については、これまでもその有効性を検討しているが¹⁾、今年度は学生自身の評価を明確化することを目的として、2013（平成25）年度前期終了時にアンケート調査を実施した。調

表2 選択必修科目の受講科目数

	商学科	経営情報学科
2科目	32(26.9)	66(58.4)
3科目	67(56.3)	42(34.2)
4科目	20(16.8)	5(4.4)
計	119(100.0)	113(100.0)

単位：人（ ）内は構成比

表4 学科別履修状況

	商学科	経営情報学科
履修科目数	21.5	20.9
取得単位	19.6	18.4
（再試後）	20.1	19.2
GPA	2.435	2.350
（再試後）	2.449	2.379

単位：人（ ）内は構成比

査対象は「選択必修科目」を受講する学生であり、延べ574名から回答を得た。

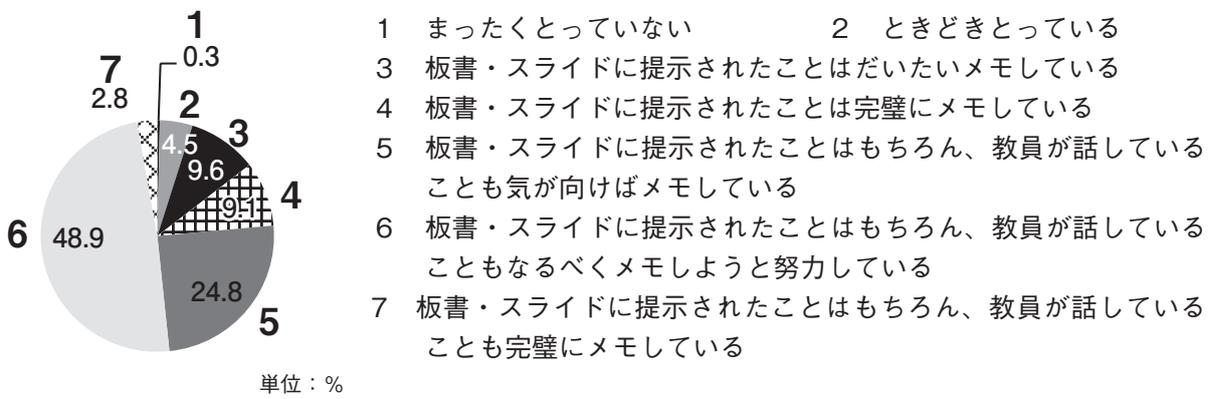
メモの程度を見ると(図1)、もっとも回答が多かったのが「6 板書・スライドに提示されたことはもちろん、教員が話していることもなるべくメモしようと努力している」であった。板書やスライドに示されることを機械的にメモするだけでなく、教員が話すことも、要不要の判断をしながら書き取っている学生が半数近くを占めている。

授業中のメモが「出席レポート」の作成に役立つ

ているかを質問したところ、4分の3以上の学生が「1 非常に役立っている」と回答している(図2)。「2 まあまあ役立っている」を合わせると98%以上を占めており、メモをとることに手応えを感じている学生がほとんどである。

図1で示したメモの程度に対する回答(縦軸に掲げた1~7)別に、図2の回答を集計した結果が図3である。これによると、概ね、積極的にメモをとっている学生ほど、メモがレポート作成に「非常に役立っている」ことを実感していることがわかる。

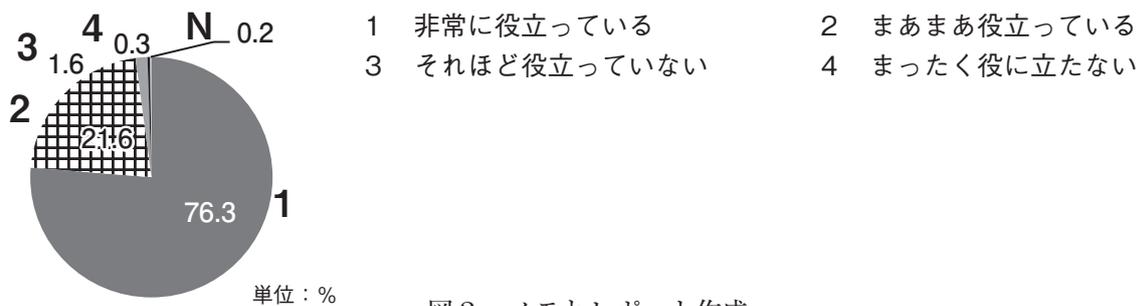
問 授業中、メモをとっていますか(ひとつ○をしてください)



- 1 まったくとっていない
- 2 ときどきとっている
- 3 板書・スライドに提示されたことはだいたいメモしている
- 4 板書・スライドに提示されたことは完璧にメモしている
- 5 板書・スライドに提示されたことはもちろん、教員が話していることも気が向けばメモしている
- 6 板書・スライドに提示されたことはもちろん、教員が話していることもなるべくメモしようと努力している
- 7 板書・スライドに提示されたことはもちろん、教員が話していることも完璧にメモしている

図1 メモの程度

問 授業中のメモはレポートの作成に役立っていると思いますか(ひとつ○をしてください)



- 1 非常に役立っている
- 2 まあまあ役立っている
- 3 それほど役立っていない
- 4 まったく役に立たない

図2 メモとレポート作成

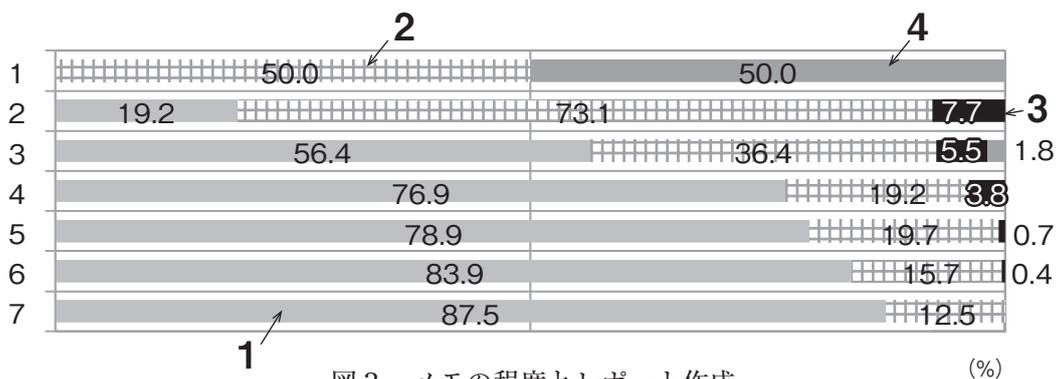


図3 メモの程度とレポート作成

授業外の学習時間は、30～1時間30分（「3」「4」と答えた学生が多く、約65%を占めている（図4）。また、1時間以上の学習時間を確保している学生が約57%と過半数である。これは1科目あたりの学習時間であり、学生は2科目～4科目受講していることから、多くの学生が1週間に一定以上の学習時間を確保しているといえる。

メモをとり「出席レポート」を作成することが講義内容の理解に「1 非常に役立っている」「2 まあまあ役立っている」と回答した学生は99%を占めている。

図1で示したメモの程度に対する回答（縦軸に掲げた1～7）別に、図5の回答を集計した結果が図6である。これによると、積極的にメモをとっている学生ほど、メモやレポートが講義内容の理解に「非常に役立っている」と感じている。メモのがんばりと講義内容の理解が概ね比例しているといえる。

出席レポートの提出については、毎回必ず提出したと答えた学生は約7割にとどまっている（図7）。「2 提出しなかったことが3回未満」の学生は23%、「4 ほとんど提出しなかった」あるいは「5 一度も提出しなかった」という学生もわずかでは

問 メモをまとめ直したり、レポートを作成するために、平均すると週にどのくらい時間をかけていますか（ひとつ○をしてください）

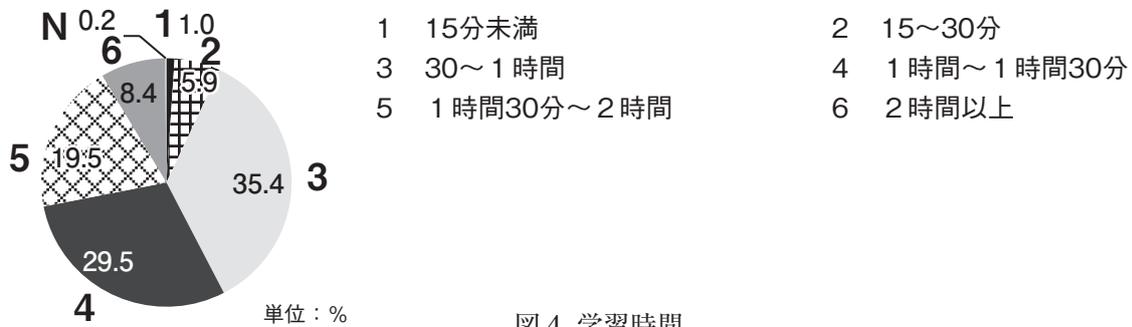


図4 学習時間

問 授業中にメモをとることや、レポートを作成することは講義内容の理解に役立っていると思いますか（ひとつ○をしてください）

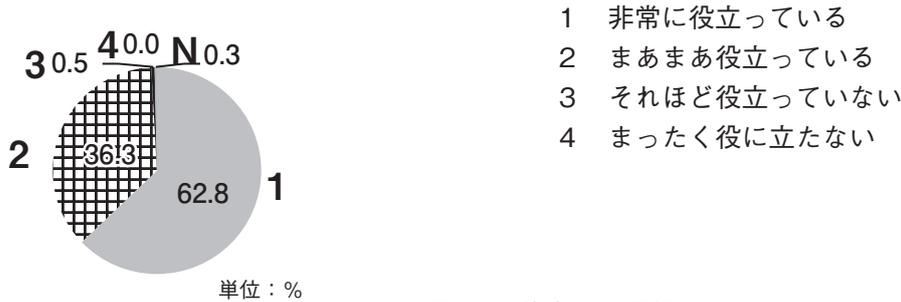


図5 講義内容の理解

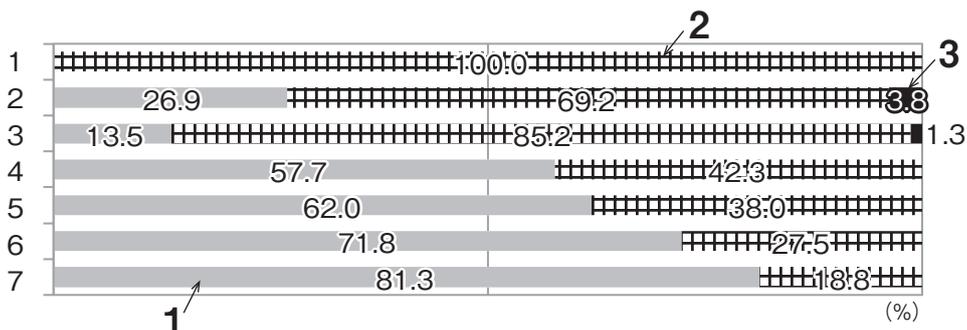


図6 メモの程度と講義内容の理解

あるが存在する。

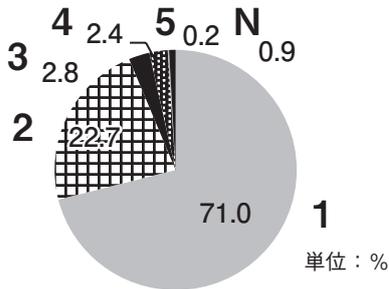
図1で示したメモの程度に対する回答(縦軸に掲げた1~7)別に、図7の回答を集計した結果を見ると(図8)、メモを熱心にとっている学生ほど、レポート提出の頻度は高い。

科目を受講してよかったかを問うと、「1 非常に良かった」が68.2%、これに「2 まあまあ良かった」を加えると93.7%を占める。「出席レポート」の作成で、学生にかかる負荷は小さくはない。しかし

ながら、ほとんどの学生が、「出席レポート」は役立ったと感じており、「選択必修科目」を受講したことに対する満足度も高い。

図4で示した学習時間に対する回答(縦軸に掲げた1~6)別に、図9の回答を集計したのが図10である。これによると、学習時間の多い学生ほど、「1 非常に良かった」の回答が多くなっており、講義に対する満足感が高いといえる。

問 出席レポートの提出について教えてください(ひとつ○をしてください)



- 1 毎回必ず提出した
- 2 提出しなかったことが3回未満
- 3 2回に1回程度の提出
- 4 ほとんど提出しなかった
- 5 一度も提出しなかった

図7 レポートの提出

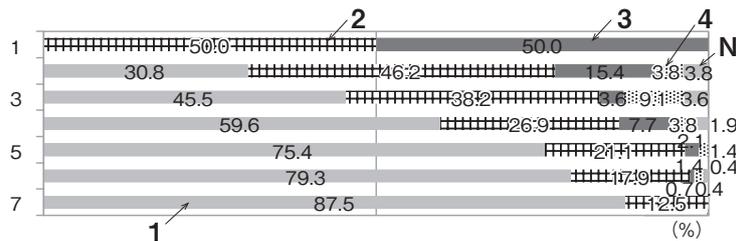
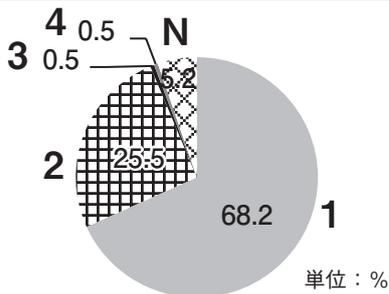


図8 メモの程度とレポートの提出

問 本科目を受講してよかったですか(ひとつ選んで○をしてください)



- 1 非常に良かった
- 2 まあまあ良かった
- 3 あまり良くなかった
- 4 受講したことを後悔している

図9 満足度

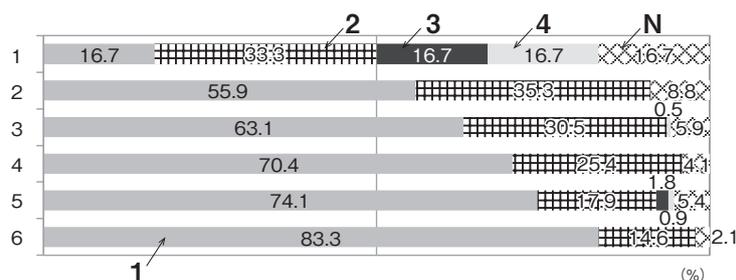


図10 学習時間と満足度

本研究では、学生のコンピテンス育成に主眼を置き、「出席レポート」がどのように寄与しているかを検討することも課題とした。

「選択必修科目」は、それぞれ科目特性が異なる。担当教員による授業の進め方、講義スタイルはもちろんのこと、「出席レポート」の課題内容やレポートの形式も違う。したがって、育成されるコンピテンスは科目によって異なることが想定される。

アンケートでは、科目を受講したことにより、学生

自身が得られたと実感することを問うた。設問には、「聴く力、集中力、メモする力、メモを整理する力、理解力、考える力、レポートにまとめる力、要約力、読解力、文章力、表現力、創造力、発想力、情報収集力、調査能力」などの項目を設けた。さらには、「理解しようとする姿勢、締め切り意識すること、優先順位を決めて行動すること、規則正しい勉強習慣、学ぶことへの意欲、時事的な問題に対する興味、勉強していることの楽しみ、自分の成長」な

問 本科目を受講して、得られていると実感できることは何ですか
(いくつでも選んで○をしてください)

- | | | | |
|-------------------|-----------------------|--------------------|-----------|
| (1)本科目に関する知識 | (2)本科目への興味 | (3)聴く力 | (4)集中力 |
| (5)メモする力 | (6)メモを整理する力 | (7)理解しようとする姿勢 | |
| (8)理解力 | (9)考える力 | (10)レポートにまとめる力 | (11)要約力 |
| (12)読解力 | (13)文章力 | (14)表現力 | (15)創造力 |
| (16)発想力 | (17)柔軟な考え方 | (18)デザイン・センス | (19)情報収集力 |
| (20)調査能力 | (21)読みやすい字、丁寧な字で仕上げる力 | (22)パソコンの操作能力 | |
| (23)事務処理能力 | (24)締め切り意識すること | (25)優先順位を決めて行動すること | |
| (26)規則正しい勉強習慣 | (27)忍耐力 | (28)継続力 | (29)向上心 |
| (30)探求心 | (31)学ぶことへの意欲 | (32)時事的な問題に対する興味 | |
| (33)本科目の知識を活用すること | (34)達成感 | (35)グループ学習の機会 | |
| (36)視野の広がり | (37)勉強していることの楽しみ | (38)自分の成長 | |
| (39)教員とのコミュニケーション | (40)その他 | | |

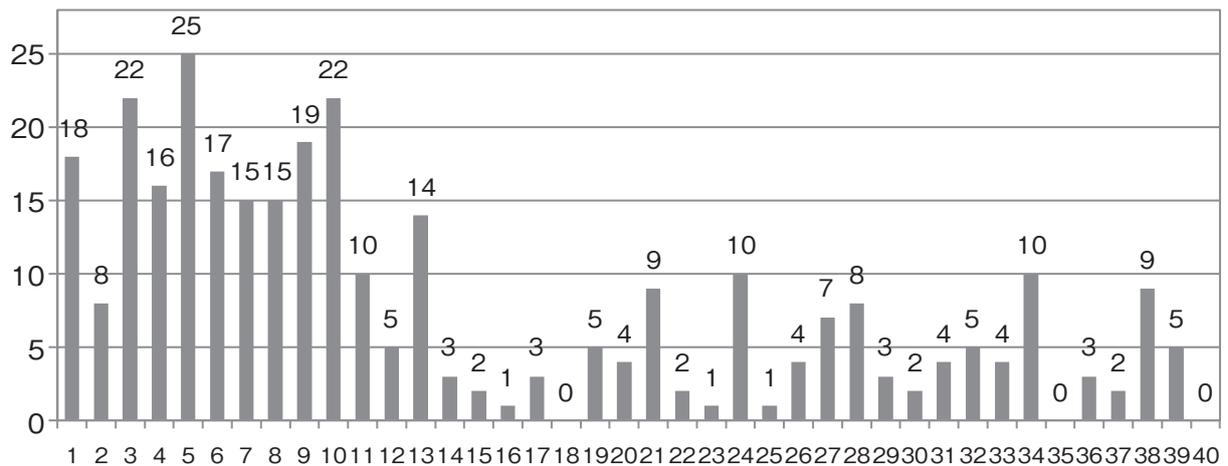


図11 得られていると実感できること - 経済の基礎 -

ど、学生の意識や感覚に関する選択肢も用意し、学生自身の評価を明らかにした²⁾。

「経済の基礎」を受講した学生が得られていると実感できた項目は、図11から明らかになる。もっとも回答が多かった「(5) メモする力」は全ての科目で1位に挙げられている。次いで「(3) 聴く力」「(10) レポートにまとめる力」「(9) 考える力」などの項目が続く。「経済の基礎」の「出席レポート」は、A4サイズのレポート用紙一枚に、手書きで授業内容をまとめることが指示される。そのため、「(13) 文章力」「(11) 要約力」「(21) 読みやすい字、丁寧な字で仕上げる力」などの項目についても回答が多い。

「金融の基礎」を受講した学生が得られていると実感できた項目は図12の通りである。「(5) メモする力」の他、「(10) レポートにまとめる力」「(1) 本科目に関する知識」「(3) 聴く力」などの項目が上位に挙げられている。「出席レポート」は、テキストの重要箇所を要約し、解説された内容を加えるよ

う指示されている。また、レポートはパソコンで作成し、フォントはMS明朝体10.5ポイントに統一すること、A4用紙一枚にまとめることとしている。学生は「出席レポート」を作成することにより、「(11) 要約力」や「(22) パソコンの操作能力」「(13) 文章力」も強化されているようである。

「経営の基礎」を受講した学生が得られたと実感している項目は図13の通りである。「(5) メモする力」「(1) 本科目に関する知識」「(10) レポートにまとめる力」「(2) 本科目への興味」「(3) 聴く力」などの回答がとくに多い。レポートは、A4用紙一枚に手書きを原則としていることから、「(21) 読みやすい字、丁寧な字で仕上げる力」も身につけているようである。また、「(31) 学ぶことへの意欲」や「(36) 視野の広がり」も実感していることがわかる。

「マーケティングの基礎」を受講して得られてたと学生が実感している項目を図14に掲げた。もっとも回答が多かったのは他の科目と同様「(5) メモす

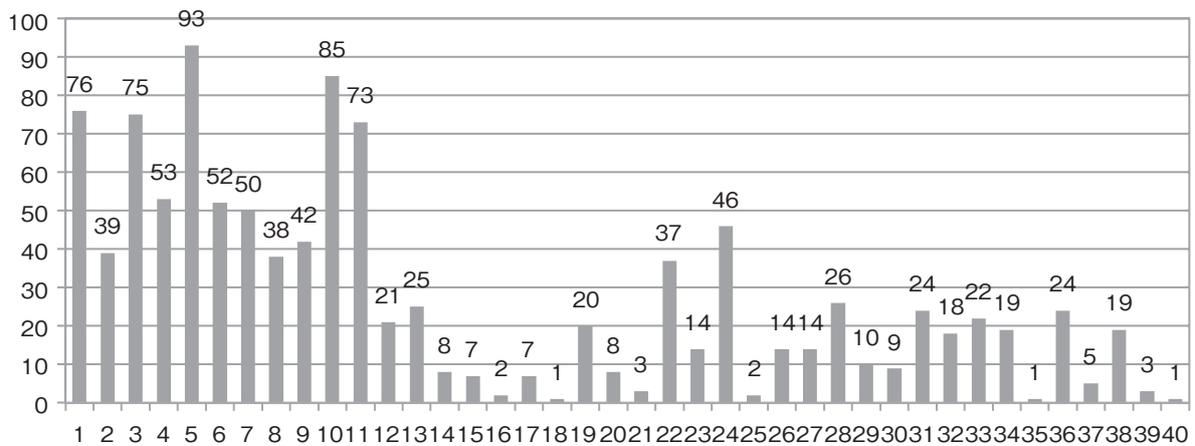


図12 得られていると実感できること - 金融の基礎 -

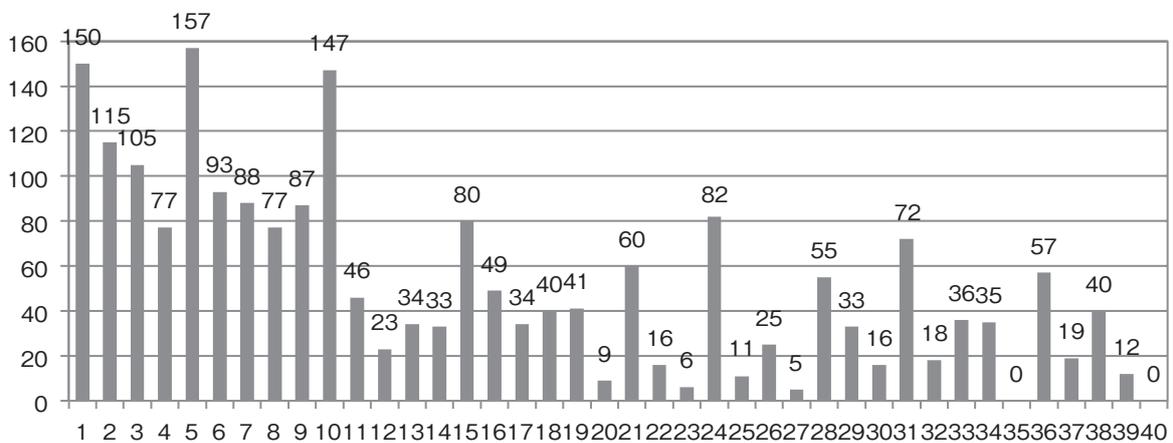


図13 得られていると実感できること - 経営の基礎 -

る力」であり、次いで「(1) 本科目に関する知識」「(10) レポートにまとめる力」「(2) 本科目への興味」などの回答が多かった。レポートは、パソコンで作成することを義務づけているが、フォーマットはとくに定めず、字数やページ数も制限しない。見た目も重視し、表現力の強化も図っている。回答が多かった項目には「デザイン・センス」「パソコンの操作能力」「創造力」「表現力」などもあり、「出席レポート」の作成によって鍛えられたコンピテンスとして捉えることができる。

図4で示した学習時間に対する回答別に、図11～14の間に対して学生が回答した項目数を集計したのが図15である。これによると、学習時間と項目数は比例しており、学習時間が多い学生ほど、科目を受講して得られたと実感していることが多いといえる。

図9で示した受講したことに対する満足感に対する回答別に、図11～14の間に対して回答した項目数を集計したのが図16である。これによると、科目を受講したことに満足している学生ほど、回答した項

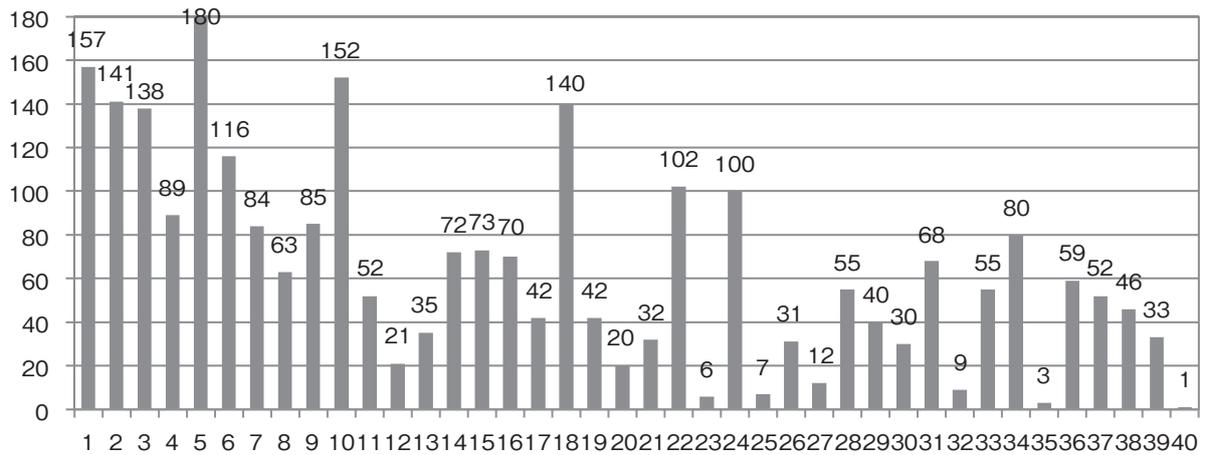
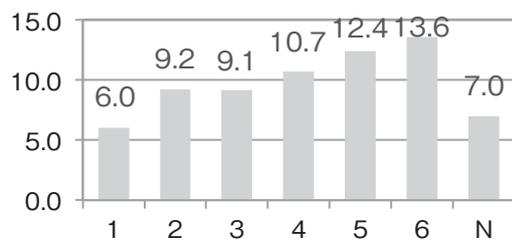


図14 得られていると実感できること -マーケティングの基礎-

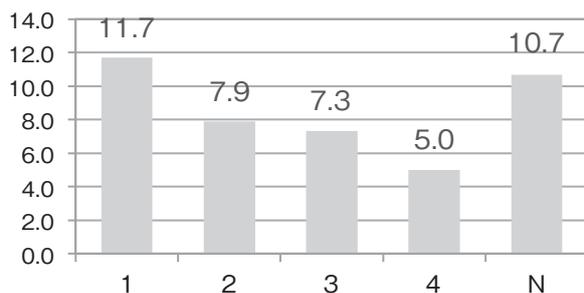
問 メモをまとめ直したり、レポートを作成するために、平均すると週にどのくらい時間をかけていますか(ひとつ○をしてください)



- (1) 15分未満
- (2) 15～30分
- (3) 30～1時間
- (4) 1時間～1時間30分
- (5) 1時間30分～2時間
- (6) 2時間以上

図15 得られていると実感できる項目数

問 本科目を受講してよかったですか(ひとつ選んで○をしてください)



- (1) 非常に良かった
- (2) まあまあ良かった
- (3) あまり良くなかった
- (4) 受講したことを後悔している

図16 得られていると実感できる項目数

目数が多い。得られたことが多々あったと実感されるからこそ、満足度が高いともいえよう。

メモをとることに熱心であり、「出席レポート」の作成にも力を入れている学生ほど、得られていると実感されることも多く、「選択必修科目」を受講したことに対する満足度も高い。他方で、授業中にメモをとること、「出席レポート」を作成することに力を入れることができない学生は、「出席レポート」を作成することに対する負担感が非常に大きく、「出席レポート」の作成により得られる成果がきわめて少ない。そのような学生は、科目に関わらず一般的に学ぶことへの意欲が乏しいように観察される。モチベーションが低い学生は、「出席レポート」の提出が滞りがちである。意欲が消失してしまうと、欠席回数が増え、ついには履修放棄といった状況に陥ることもある。「出席レポート」の負荷に耐えられないような学習意欲の低い学生に対する対応策を講ずることは継続的な課題として捉えている。

注

- ¹⁾ 「出席レポート」の有効性については、経済教育学会第26回全国大会(2010年)および第27回全国大会(2011年)において報告し、同学会誌『経済教育』で報告内容を発表した。
- ²⁾ コンピテンスについての分析については、「『出席レポート』を活用したコンピテンスの育成」と題し、経済教育学会第29回全国大会(2013年)にて報告をした。

参照

- ¹⁾ 金子能呼 飯塚徹 糸井重夫「『出席レポート』を活用した『就業力』と『学士力』向上への取り組み」『経済教育No30』経済教育学会、2011、pp.147-154.
- ²⁾ 金子能呼「『出席レポート』の効果に関する一考察」『経済教育No31』経済教育学会、2012、pp.48-53.